



【表紙の写真】
親・子・孫、三代で楽しんでいる
バスケットボール

たのしい 体育・スポーツ

2014年10月号 通巻第285号

CONTENTS

今月の授業：運動会アラカルト ～団体競技・組体操のヒント～ 山内基広

特集 スポーツのあり方について考える

【かぜ】スポーツのあり方について考える 竹内由美…………… 7

【論考】

運動文化論を中でスポーツをどう語ってきたか 平田和孝…………… 8

【特別寄稿】

叱らず、問いかけることで、子どもはスポーツを大好きになる 池上 正…………… 14

「見るスポーツ」の価値を問う 早川武彦…………… 18

【論考】

新たな運動文化論に向けて（1）—主体者形成論の見直し— 田中新治郎…………… 22

【実践のひろば】

スポーツを人生の伴奏に 奥田直和…………… 26

スポーツ文化とともに成長する青年たち 吉田 隆…………… 30

【投稿（実践報告）】

「人生で一番おもしろい体育だった」—大学生を対象とした体育実技の授業— 木原真理…………… 34

連載

障害児教育の現場より：室内ホッケー—初めての実践— 鶴澤真緒…………… 38

私と子どもたち：私のであった子どもたち 有信 実…………… 40

私たちの授業研究：「2年生の水泳指導どうしようかな」—1年生の実践を振り返って— 木村典雄…………… 42

図書紹介：江上弘晃／竹川幸介／中西 匠…………… 45

情報ノート：水谷 淳…………… 46

読者の声：鈴木佳子／野村紀子…………… 47

東西南北：星野 実…………… 48

編集後記・次号予告…………… 50



スポーツのあり方について考える

竹内由美

持久走大会で1・2位を争う子どもが、マット運動などでいろいろな活動をさせると、動きがぎこちなかったりする場面を見かけることがあります。聞くと小学校1年生からサッカークラブに通っていたりします。一つのスポーツに取り組むことで育つこともあるかもしれませんが、年齢が低いときはさまざまな可能性を見出すためにも、多様な身体活動をさせていくことが大切かと考えます。あそびからスポーツへの転換期でもある時代に、子どもたちはスポーツといい出会いをしているのでしょうか。

かつて、丹下氏は「ひまが人間を作る」という言葉でスポーツについて語られ、それを高津氏は「自由時間に展開する自主的・自発的なスポーツ（運動文化）が“人間を創る”」と解釈されていたのを目にしました。子どもたちが自由に使える時間や空間をおとなが奪い、私たち労働者の自由に使える時間もどんどん減少しています。健康ブームや商業ベースで用意された「スポーツ」の場の横行によって「スポーツ」が持つ本来的な良さを、だれもが享受できていない現状があるのではない

でしょうか。

そもそも「スポーツ」とは、という発祥のところから、時代によって利用されたり、形を歪められたりしながら、それでも私たち人間にとって欠かせないものとして存在してきている「スポーツ」について、いろいろな視点から見つめ直せたらと考えています。

スポーツをいろいろな側面から眺め、その特質や構造などを知ることが大切だと思います。多くは近代スポーツを題材に教材化して学校で体育を展開している教師としても、また、自身でスポーツをする者としても、スポーツをどう捉え、どう向き合うかを考えることが、スポーツの持つ人間にとっての価値（意味）やその可能性を探ることにつながるのだと思うからです。

子どもたちが、子ども時代を豊かに過ごすことができるよう、また、私たちおとなも豊かな時間を過ごすことができるよう、「スポーツ」について考え合うきっかけができたらと思います。

（たけうち ゆみ／埼玉支部）